

エフエム八ヶ岳番組審議会報告

エフエム八ヶ岳はリスナーの皆様のご意見を番組制作に反映させ、より良い番組づくりの務めております。放送内容について皆様からのご感想、ご意見をお待ちしております。今後の番組制作の資料とさせていただきますので、どうぞお気軽にお寄せください。

■2019年9月

エフエム八ヶ岳の第156回番組審議会は9月21日、北杜市小淵沢町のエフエム八ヶ岳演奏所ホールで開かれました。議題は「お知らせ番組」。「北杜市からのお知らせ」という“音声で聞く広報誌”をはじめ、「インフォシティ」という民間のイベント情報を中心にした告知番組、観光客や外国人、そしてヒアリングの学習を必要とする中高生を対象にした「イングリッシュ・インフォシティ」などについて意見を交わしました。審議委員6名、放送局から1名が出席。委員からの主な意見は次の通りです。

- ・「北杜市からのお知らせ」は市広報誌を日常、あまり読まないのが現実だが、仕事をしているときや運転をしているときに気軽に聞くことができて助かっている。アナウンスもはっきりと、ゆっくりとした口調で大変に聞き取りやすいと感じている。
- ・行政のお知らせは、市民の1日の行動がラジオやネットラジオを聞く状況にあればいつでも聞くことができるであろう回数を放送している。できれば、警察からの「安全安心情報」も大切な情報なので、同様にもっと回数を増やしてほしい。
- ・「安全安心情報」、「インフォシティ」はサポートスタッフが読んでいるが、手作り感があり、個性があって親しみが持てる。番組のお知らせ項目を、番組の始めに羅列して紹介することで興味ある項目に注意を払うことができ、情報を伝える効果が増すのではないかと。
- ・「インフォシティ」は、男女ペアがアナウンスすることが多い。声が代わって、内容の切れ目が分かりやすい。
- ・ラジオは何となく聞いていることが多いので、「インフォシティ」という民間団体のイベント情報を把握するのは限界がある。ホームページでも文字情報として掲載しているが、ホームページを見返してみようという気持ちを起こさせるような印象に残る放送が必要ではないかと。
- ・週末の土曜・日曜の昼頃に放送している「イングリッシュ・インフォシティ」は、自然な話し方で聞きやすい。子どもたちのリスニング学習としてもよい教材になると感じている。
- ・「お知らせ番組」は、地域と放送局を結ぶという大きな役割をもつ番組と言える。地元住民はもとより、移住者にとっても生活・文化・自然の多様性を再認識してもらえるものと思われる。更なる充実を望む。